

ラルテー語の音韻とクキ・チン祖語

A phonological comparison of Ralte and Proto-Kuki-Chin

大塚 行誠

Kosei OTSUKA

キーワード：チベット・ビルマ語派 クキ・チン語支 インドの少数民族 比較言語学

要旨

ラルテー語は、チベット・ビルマ語派クキ・チン語支に属し、主にインド北東部のミゾラム州北部で話されている。話者数は 900 人程度にすぎず、現在消滅の危機に瀕した状態にある。本稿ではラルテー語の背景と音韻に関する概要を述べた後、VanBik (2009) の再構したクキ・チン祖語 (Proto-Kuki-Chin) とラルテー語との対応を明らかにする。

1 言語の概要

ラルテー語 (Ralte, ISO 639-3: ral) は、「ラールテー語 (Rāltē)」とも呼ばれ、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派のチン語支北部チン語群 (西田 1989:995)、またはクキ・チン語支周辺語群の北部チン諸語 (VanBik 2009:31)¹ に属する。2007 年のラルテー語の話者数は 900 人程度にすぎず、消滅寸前 (moribund) の状態にある (Eberhard et al. 2019: 153)。

ラルテー語を母語とする人々のコミュニティはインド共和国ミゾラム (Mizoram) 州北部のアイゾール (Aizawl) をはじめ、インド北東部の各地に点在する (Eberhard et al. 2019: 153)。ミゾラム州北部の主な共通語がクキ・チン語支中央チン語群²のミゾ語 (Mizo, ISO 639-3: lus) であるため、ラルテー語話者の多くはミゾ語も流暢に話することができる。

本稿で考察の対象とする言語はミゾラム州アイゾール市ボンコーン (Bawngkawn) 地区におけるラルテー語である。メイン・インフォーマントのラルラムザウヴァ・ラルテー (Lalramzauva Ralte) 氏 (男性, 1946 年 7 月生) は、ミゾ語とラルテー語の両言語を流暢に話することができるほか、英語を用いたコミュニケーションも可能である。本稿の記述内容は 2015 年から 2017 年にかけて筆者が現地で行った聞き取り調査に基づいている。

¹ VanBik (2009) の言う Peripheral Group (Northern and Southern-Plains Group, Northern (Zo) Group) に相当する (VanBik 2009: 23–38)。本稿では Northern (Zo) Group を便宜上北部チン諸語と呼ぶことにする。後述するティディム・チン語もこの北部チン諸語に属する言語である。

² VanBik (2009) の言う Central Chin (Laamtuk Thet-Lai-Mizo) Group にあたる (VanBik 2009: 39–51)。

現在、インド国内にラルテー語の教育を行う公立学校やラルテー語の調査研究を行う公的機関は存在しない。しかし、ラルテー語話者はミゾ語の正書法を基にした独自のラテン文字表記法を使っており、ラルテー語版の新約聖書 (Ralte Study Forum 2012) をはじめ、Ralte (2005) や Ralte (2017) といったミゾ語・ラルテー語の対訳本など、ラルテー語によって書かれた書籍もわずかながら出版されている。

本稿では次節で紹介する音素表記を用いてラルテー語を書き表す。音素表記であることを示す / / は省略するが、ラルテー語の出版物などで一般的に使われている綴りもしくはミゾ語の正書法による表記は < > で囲んで表す。国際音声記号による音声表記は [] で囲んで表し、音素表記と区別する。

2 音韻

本節では、大塚 (2015), 大塚 (2016a), 大塚 (2016b) のラルテー語の音韻に関する記述に修正を加え、改訂した表記法を提示する。以下、ラルテー語の§2.1 音節, §2.2 子音, §2.3 母音, §2.4 声調について述べる。

2.1 音節

ラルテー語の基本的な音節構造を図 1に示す。任意要素は括弧 () で囲んで表す。

(C1)V(C2)(C3)/T

図 1 ラルテー語の音節

Cは子音, Vは母音 (単独母音または二重母音), /Tは音節全体にかぶさる声調を表す。C1の位置に現れるものを頭子音, C2とC3の位置に現れるものをどちらも末子音と呼ぶ。C3の位置に現れる末子音は声門閉鎖音?のみである。本稿では、音節中の -V(C2)(C3) の部分をまとめて韻 (rhyme) と呼んで考察を進める。

ラルテー語の音節はその構造によって「平音節 (smooth syllable)」と「促音節 (checked syllable)」という2種類に大きく分けられる。本稿では、母音で終わる音節または共鳴子音で終わる音節を「平音節」と呼び、閉鎖音を末子音に持つ音節を「促音節」と呼ぶ。

2.2 子音

音節中の C1 の位置に生起する子音、すなわちラルテー語の頭子音を表 1 に示す。

表 1 C1 の位置に現れる子音（頭子音）

閉鎖音	p, p ^h <ph>, b	t, t ^h <th>, d	k, k ^h <kh>
鼻音	m	n	ŋ <ng>
はじき音		r [ɾ]	
摩擦音	f, v	s, z	h
破擦音		c [tɕ] <ch>	
側面接近音		l	

上記のほか、ミゾ語や英語からの影響により生じたと考えられる子音もある。例えば、借用語では [t]（ミゾ語正書法の <ɸ>），[t^h]（ミゾ語正書法の <th>），[ɕ ~ ʃɾ]（ミゾ語正書法の <hr>），[g]（ミゾ語正書法の <g>），[ɗ]（ミゾ語正書法の <j>），[tɕ^h]（ミゾ語正書法の <chh>）などの音声も現れる。

次に、C2 の位置に現れる末子音を表 2 に示す。

表 2 C2 の位置に現れる子音（末子音）

閉鎖音	p	t	k
鼻音	m	n	ŋ <ng>
はじき音		r [ɾ]	
接近音	w <u> ³	y [j] <i> ⁴	
側面接近音		l	

C3の位置に生起する子音は声門閉鎖音 -ʔ <-h> のみであり、C2の子音と共起する場合、その組み合わせは -wʔ <-uh>，-yʔ [-jʔ] <-ih>，-rʔ [-ɾʔ] <-rh>，-lʔ <-lh> に限られる。

2.3 母音

³ ラルテー語の話者が一般的に用いる表記法では C2 の w を <u> と書く（例：pă:w <pau> 「言葉」）。但し，ow だけはミゾ語の正書法にならって <o> と綴る（例：lòw <lo> 「畑」）。

⁴ ラルテー語の話者が一般的に用いる表記法では C2 の y [j] を <i> と書く（例：tà:y <tai> 「夕方」）。

単独母音には i, e [ɛ], a, o [ɔ] <aw>, u があり, 長短の対立も見られる⁵。本稿では長母音を i:, e: [ɛ:], a:, o: [ɔ:] <aw~âw>, u: と表す。二重母音には ia と ua がある。

次に, 形態音韻的な特徴として長母音と二重母音の短母音化について述べる。複合語や派生語の先行音節では例 (1) のような短母音化が生じる。そして, 複合語や派生語の先行音節における二重母音の ua と ia はそれぞれ単独母音の o と e になる傾向がある (例 (2), (3) 参照)。短母音化した音節の声調は原則として低平調で現れる。声調については次の節で述べる。

- (1) cā: + pǎ: = cǎpǎ:
 子 男 息子
- (2) k^huâ + -pùɣ = k^hòpùɣ
 村 [指大辞] 町
- (3) mǽysia + nâ:wpàŋ = mǽysènâ:wpàŋ
 女性 子ども 女の子

2.4 声調

ラルテー語の平音節, および長母音・二重母音の V と閉鎖音の C2 の韻から成る促音節では, (a) 低平調 /˘/[J] (例 (4) a. 参照), (b) 上昇調 /ˀ/[ʌ] (例 (4) b. 参照), (c) 下降調 /˥/[V] (例 (4) c. 参照) の 3 声調が見られる。しかし, ラルテー語の話者が一般的に用いるラテン文字表記法ではこれらの声調を書き分けない。

- (4) a. lèy <lei> 「買う」
 b. lǽy <lei> 「橋」
 c. lēy <lei> 「舌」

一方, 促音節のうち, 声門閉鎖音²が末子音 C3 として現れるもの (例 (5) a. 参照) と, 韻が短母音の V と閉鎖音の C2 から成るもの (例 (5) b. 参照) については, 上記のいずれの声調パターンにもあてはまらない。基本的に低いピッチ [J] で発音するが, 低平調の音節に後続する場合は高いピッチ [1] で発音する (例 (6) 参照)。これを第 4 の声調とする

⁵ ラルテー語の話者が一般的に用いる表記法では母音の長短を基本的に書き分けないが, まれに母音字を重ねるか, 補助記号[^]を付加して長母音を表わすことがある。

か否かについては今後さらに慎重に検討していく必要がある。本稿ではこれらの促音節を以下の例のように声調記号を付加しないで記述することにする。

- (5) a. sa? [saʔ] 「厚い」
 b. kʰut [kʰut] 「手」
- (6) a. sù:m-sa? [su:m]saʔ] 「厚い雲，濃霧」
 雲-厚い
 b. tʰi:k-kʰut [tʰi:k]kʰut] 「熊手」
 鉄-手

複合語（例 (7) 参照）および拘束形態素を付加する派生語や句（例 (8) 参照）において、上昇調は、下降調の音節が後続すると、低平調に転じる。

- (7) lǔy + kām = lùykām
 川 岸 川岸
- (8) tʰěy + ôw = tʰěyôw
 知る [否定] 知らない

3 クキ・チン祖語との対応

本節では、§2 で述べたラルテー語の子音、母音、声調がそれぞれクキ・チン祖語とどのような対応関係にあるのかについて検討する。クキ・チン祖語の再構は、大野 (1965) による頭子音の再構成にはじまり、Khoi Lam Thang (2001) と VanBik (2009) がそれぞれクキ・チン祖語の全体的な再構を試みている。本稿では、大野 (1965) と Khoi Lam Thang (2001) の内容も考慮に入れつつ、VanBik (2009) によるクキ・チン祖語を主要な考察対象として記述を進める。以下、VanBik (2009) のクキ・チン祖語を PKC (Proto-Kuki-Chin) と呼ぶ。

VanBik (2009) は PKC における開音節の音節を (C⁶)C(G)VV/T、閉音節の音節を (C)C(G)V(V)(C)/T としている (VanBik 2009: 57)。このうち、G はわたり音 (glide) であり、-r- または -l- が現れうる。以下、PKC とラルテー語との対応を頭子音、韻、声調に分けて論じる。

なお、§3.1 と §3.2 では周辺言語との対照的観点から、ラルテー語と同じ北部チン諸語に

⁶ Prefix の子音にあたる (VanBik 2009: 57)。但し、ラルテー語やその周辺言語では prefix の子音は現れず、本稿の内容と議論にも直接関与しないため、ここでの説明は割愛し、考察対象からも外すことにする。

属するティディム・チン語 (Tedim Chin / Tiddim Chin, ISO:639-3 ctd) と、ラルテー語に強い影響力を持つ中央チン語群のミゾ語の例も併記する。

両言語の音韻に関する詳細な記述は Henderson (1965) と Chhangte (1993) にある。本稿では便宜上、ティディム・チン語の子音を p, p^h, b, t, t^h, d, k, g, ʔ, c[te], (f), v, s, z, x, h, m, n, ŋ, l と表記し、ミゾ語の子音を p, p^h, b, t[t̚~t̚], t^h[t̚^h~t̚^h], d[d̚~d̚], t[t̚], t^h[t̚^h], k, k^h, ʔ, c[te], c^h[te^h], f, v, s, z, h, m, m̥[m̥m], n, ŋ[ŋn], ŋ, ŋ̊[ŋ̊ŋ], tl, t^hl[t̚^h~tl], l, l̥[l̥l], r[r̥], r̥[r̥r~ε], w, y と表記する。両言語の母音については i, e[e~ε], a, o[o~ɔ], u とその組み合わせを用いて表す。国際音声記号にならい、長母音には : を付加し、声調はティディム・チン語の場合⁷ (第1声調), ^ˊ (第2声調), ^ˋ (第3声調)⁷を、ミゾ語の場合⁷ (上昇調), ^ˊ (低平調), ^ˋ (下降調), ^ˊ (高平調) を付して表す。

3.1 頭子音

3.1.1 単独の頭子音

PKC における単独の頭子音とラルテー語の頭子音の対応は概ね表 3 のようになる。

表 3 PKC (VanBik 2009) との対応：単独の頭子音

PKC	*b-	*d-	*p-	*t-	*k-	*ph-	*th-
Ralte	b-	d-	p-	t-	k-	p ^h -	t ^h -
例	(9)	(10)	(11)	(12),(13)	(14)	(15)	(16),(17)
PKC	*kh-	*ʔ-	*ts-	*tsh-	*θ-	*s-	*s ^h -
Ralte	k ^h -	Ø-	c-	s-	s-	s-	s-
例	(18)	(19)	(20),(21)	(22)	(23)	(24)	(25)
PKC	*h-	*m-	*n-	*ŋ-	*hm-	*hn-	*hŋ-
Ralte	h-	m-	n-	ŋ-	m-	n-	ŋ-
例	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)
PKC	*r-	*l-	*hr-	*hl-	*w-	*y-	
Ralte	h-/r-	l-	h-	l-	v-	z-	
例	(35),(36)	(33)	(37)	(34)	(38)	(39)	

[1] PKC の閉鎖音

ティディム・チン語とミゾ語をはじめ、北部チン諸語と中央チン語群に属するその他多

⁷ Henderson (1965:70) と Bhaskararao (1996) は、ティディム・チン語の声調を 1 から 3 までの番号で示している。声調番号の¹は上昇調、²は低平調（平板調）、³は下降調に相当する (VanBik 2009:452)。

くの言語と同様に、PKCの有声入破音*ɓ-と*ɗ-はそれぞれb-（例（9）参照）とd-（例（10）参照）に対応する。PKC*t-の場合、ティディム・チン語において[i]の前でc-となる相補分布が見られるが、そのような現象はラルテー語には見られない（例（13）参照）。さらに、PKC*th-の場合、ティディム・チン語において前舌高母音の前でs-になるなど北部チン諸語で改新が見られるが、ラルテー語ではPKCの形式を維持している（例（17）参照）。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(9)	bâ:n	bà:n	bá:n	*ɓaan	「腕」
(10)	dâm	dàm	dám	*ɗam	「元気だ」
(11)	pâ:k	pà:k	pá:r	*paar	「花」
(12)	tù:	tũ:	tû:	*tuu	「孫」
(13)	tìn	cǐn	tǐn	*tin	「爪」
(14)	kùm	kûm	kùm	*kum	「年」
(15)	pʰû:m	pʰù:m	pʰú:m	*phuum	「埋める」
(16)	tʰəl	tʰǎl	tʰǎl	*thal	「矢」
(17)	tʰǐn	sín	tʰìn	*thin	「肝」
(18)	kʰuây	xuài	kʰuáy	*khuay	「蜂」
(19)	ù:y	ũi	űy	*ʔuy	「犬」

[2] PKCの破擦音

PKCの*ts-と*tsh-はそれぞれラルテー語のc-（例（20）、（21）参照）とs-（例（22）参照）に対応する。ティディム・チン語では母音[i]の前においてc-（例（21）参照）となり、その他の母音の前ではt-（例（20）参照）となるが、ラルテー語では一貫してc-に対応する。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(20)	cǎl	tâl	càl	*tsal	「額」
(21)	cǐ:	cí:	cì:	*tsii	「塩」
(22)	saʔ	sâʔ	cʰàʔ	*tshaʔ	「厚い」

[3] PKCの摩擦音

PKC*θ-は上記 [2] の PKC*ts-と同じく概ね c-に対応している⁸ (例 (23) 参照)。PKC の *s^h-は北部チン諸語や中央チン語群の諸言語と同じく, s-に対応する (例 (25) 参照)。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(23)	cà:	tǎ:	fā:	*θaa	「子」
(24)	sûm	sùm	súm	*sum	「お金」
(25)	sân	sàn	sén	*s ^h en ⁹ *s ^h an	「赤」
(26)	hâ:	hà:	há:	*haa	「歯」

[4] PKC の鼻音

PKC の無声鼻音 *hm-, *hn-, *hŋ-は, 北部チン諸語のティディム・チン語と同じく, ラルテー語では m- (例 (30) 参照), n- (例 (31) 参照), ŋ- (例 (32) 参照) にそれぞれ対応している。すなわち, PKC における鼻音の有声／無声の対立は完全に失われている。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(27)	mèy	měi	měy	*may	「火」
(28)	nî:	nì:	ní:	*nii	「太陽」
(29)	ŋâl	ŋàl	ŋál	*ŋal	「脛」
(30)	mǔ:	mû:	ṁù:	*hmuu	「見える」
(31)	nǎ:	nâ:	ṇà:	*hnaa	「仕事」
(32)	ṇà:k	ṇǎ:k	ṇâ:k	*hṇaak	「待つ」

[5] PKC の流音および接近音

PKC の有声流音 *l-はラルテー語でも形式が維持される一方, PKC の無声流音 *hl-は, 北部チン諸語のティディム・チン語と同じく, 有声流音の l- (例 (34) 参照) に対応する。すなわち, PKC における流音 l の有声／無声の対立が完全に失われている。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(33)	lû:	lù:	lú:	*luu	「頭」

⁸ f-に対応する例も僅かにあったが, ミゾ語からの影響によるものとして今回の考察対象から外した。

⁹ *A^h*B は*A と*B が allofam (Matisoff 1978) の関係にあることを示す。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(34)	là:	lă:	lǎ:	*hlaa	「歌」

PKC の流音*r-はラルテー語の h-（例 (35) 参照）または r-（例 (36) 参照）に対応する。特に、PKC *r->h-の対応は大野 (1965), Khoi Lam Thang (2001), VanBik (2009) にも指摘が無い。ラルテー語では hām「国」(PKC*ram), hua?「雨」(PKC*rua?), hu?「骨」(PKC*ru?) など多くの語で PKC *r->h-の対応が見られ、ラルテー語独自の改新と言える。VanBik (2009) は PKC*r->北部チン祖語*g- (VanBik 2009: 232) を示しており、口蓋摩擦化を通じた*g->h-の変化が可能性として考えられるが、この解釈については今後の検討課題としたい¹⁰。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(35)	ha?	gâ?	rà?	*ra?	「実る」
(36)	pàriàt	giăt	pàriăt	*riat	「八」

PKC*hr-はティディム・チン語と同様、h-（例 (37) 参照）に対応する。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(37)	hěy	hêi	ṛèy	*hray	「斧」

PKC の接近音*w-と*y-は北部チン諸語および中央チン語群に属する多くの言語と同じく v-（例 (38) 参照）と z-（例 (39) 参照）にそれぞれ対応している。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(38)	vok	vôk	vòk	*wok	「豚」
(39)	zû:	zù:	zú:	*yuu	「酒」

3.1.2 子音連結

音節初頭では[1]*pl-/*phl-と[2]*kl-/*khl-という側面音の連結 (lateral clusters) と[3]*pr-/*phr-と[4]*kr-/*khr-という r 音の連結 (rhotic clusters) も見られる (VanBik 2009: 290—313)。

¹⁰ 北部チン諸語のシイン・チン語 (Siyin Chin / Sizang Chin, ISO 639-3: csy) では PKC*r->北部チン祖語*g->シイン・チン語 ṛ-という改新も見られる (VanBik 2009:30)。

[1] PKC: *pl-/ *phl-

現調査段階では PKC の *pl- と *phl- との対応形式を含む語は見つかっていない。VanBik (2009) も, *pl- に 7 語の対応例を挙げているが, *phl- については対応例が挙がっていない。

[2] PKC: kl-/ khl-

PKC の *kl- と *khl- はそれぞれ t- (例 (40) 参照) と t^h- (例 (41) 参照) に対応する。PKC の *khl- は, ティディム・チン語では x- に対応しているが, 同じ北部チン諸語のシイン・チン語では t^h- に対応している (VanBik 2009: 297)。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(40)	tàŋvâ:l	tăŋvâ:l	tlàŋvâ:l	*klaŋ-waal	「青年」
(41)	t ^h ă:	xâ:	t ^h là:	*khlaa	「月」

[3] PKC: pr-/ phr-

PKC の *pr- と *phr- は, ティディム・チン語と同様に, p- (例 (42) 参照) と p^h- (例 (43) 参照) にそれぞれ対応している。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(42)	păn	pân	tân	*pran	「始める」
(43)	p ^h ă:	p ^h â:	t ^h ă:	*phraa	「良い」

[4] PKC: kr-/ khr-

PKC の *kr- と *khr- は, ラルテー語の k- (例 (44) 参照) と k^h- (例 (45) 参照) にそれぞれ対応する。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(44)	kap	kâp	tâp	*krap	「泣く」
(45)	k ^h ûy	xù:i	t ^h ûy	*khru(u)y	「縫う」

3.2 韻

本節では音節中の母音と末子音の部分, すなわち韻における PKC とラルテー語との対応について述べる。ラルテー語における末子音は, PKC*-r を除くと, 以下の表 4 と例に示すように, ほぼ PKC の形式を維持している。

表 4 PKC (VanBik 2009) との対応 : 末子音 (C2 および C3)

PKC	*-m	*-n	*-ŋ	*-r	*-l	*-y	*-w
Ralte	-m	-n	-ŋ	-k/-r	-l	-y	-w
例	(46)	(47)	(48)	(56),(57)	(49)	(50),(58)	(51),(59)
PKC	*-p	*-t	*-k	*-ʔ			
Ralte	-p	-t	-k	-ʔ			
例	(52)	(53)	(54)	(55)			

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(46)	tàm	tăm	tăm	*tam	「多い」
(47)	zǎ:n	zâ:n	zà:n	*yaan	「夜」
(48)	thàŋ	thǎ:ŋ	thǎŋ	*tha(a)ŋ	「罌」
(49)	kàl	kǎl	kǎl	*kal	「腎臓」
(50)	sâ:y	sà:i	sá:y	*saay	「象」
(51)	nâ:w	nà:u	náw	*naaw	「子ども」
(52)	tap	tâp	tàp	*tap	「炉辺」
(53)	thət	thât	thàt	*that	「殺す」
(54)	ŋà:k	ŋǎ:k	ŋǎ:k	*hŋaak	「待つ」
(55)	zaʔ	zâʔ	zàʔ	*yaʔ	「敬う」

PKC の末子音*-r のみ, ラルテー語では末子音-k (例 (56) 参照) に対応することが多い。PKC の末子音*-r は北部チン祖語において*-k となり, 北部チン諸語のティディム・チン語でも-k で対応している (VanBik 2009:380)。しかし, ラルテー語には末子音-r (例 (57) 参照) を維持している語も見られる。現調査段階ではどのような環境において -r が維持されるのかについてまでは分かっていない。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(56)	nă:k	nâ:k	ṇà:r/ṇá:r	*hnaar	「鼻」
(57)	t̪hâr	t̪hăk	t̪hár	*thar	「新しい」

母音の部分もほとんど変化しないが、PKC の*-ay と*-aw は、ラルテー語の-ey (例 (58) 参照) と-ow (例 (59) 参照) にそれぞれ対応する。

	Ralte	Tedim Chin	Mizo	PKC	意味
(58)	něy	nêi	nèy	*nay	「持っている」
(59)	sôw	sòu	sów	*saw	「沸く」

3.3 声調

最後に、PKC とラルテー語との声調の対応を見る。Luce (1985) はクキ・チン語支の様々な言語における声調を比較し、各言語間の声調の対応に一定のパターンが見られることを指摘した。そして、Luce (1985) は Tone Pattern I, Tone Pattern IIa, Tone Pattern IIb, Tone Pattern IIIa, Tone Pattern IIIb という 5 つの声調に関するカテゴリー¹¹を提案し、各言語において声調が規則的に対応していると述べた。例えば、ある同根語がマラ語で低い声調の場合、ハカ・ライ語では下降の声調、ファラム・ライ語では上昇の声調、ミゾ語では高い声調で現れるというような相関性が見られるというのである。Luce (1985) の指摘と分類に基づき、Khoi Lam Thang (2001) はクキ・チン語支の 6 言語を考察対象として検証を行っている。その結果、北部チン諸語のティディム・チン語、および中央チン語群のミゾ語とハカ・ライ語の間で明らかな声調の対応が見られたと報告した (Khoi Lam Thang 2001:98)。

VanBik (2009) は「PKC の声調を再構するのは尚早である (VanBik 2009: 57)」としながらも、クキ・チン語支のいくつかの言語¹²の語彙データから比較的形態の安定した名詞に調査対象を絞り、PKC とクキ・チン語支の言語間における声調の対応を調べた (VanBik 2009: 451–515)。VanBik (2009) は、PKC において*1, *2, *3, *4 という 4 つの声調パターンを

¹¹ 元来 Tone Pattern I, Tone Pattern II, Tone Pattern III の 3 種類であったとしている。音節の種類によって Tone Pattern II と Tone Pattern III はそれぞれ a と b にさらに分岐していったと見られる (Luce 1985:83)。

¹² VanBik (2009) は、中央チン語群のファラム・ライ語 (Falam Chin / Falam Lai, ISO 639-3: cfm), ハカ・ライ語 (Hakha Chin / Hakha Lai, ISO 639-3: cnh), ミゾ語, 北部チン諸語 (周辺語群) のティディム・チン語とタドウ・クキ語 (Thado Kuki, ISO 639-3: tcz), 南部・平地チン諸語 (周辺語群) または Khomic のクミ語 (Khumi Chin, ISO 639-3: cnk), マラ語群のマラ語 (Mara Chin, ISO 639-3: mrh) の合計 7 言語のデータを考察の対象としている。このうち、クミ語が複雑な声調対応を示しているため、本稿では便宜上クミ語を考察の対象から外している。

設定し、PKC の形式が平音節である場合の声調の対応を以下の表 5 のようにまとめた。H は高平調、L は低平調、R は上昇調、F は下降調に相当する声調を表す。

表 5 クキ・チン語支の言語間に見られる声調対応 (VanBik 2009: 454 の表を一部改変)

PKC	Mara	Hakha Lai	Falam Lai	Mizo	Tedim Chin	Thado Kuki
*1	H	F	H	R	R	F
*2	H	L	F	F	R	F
*3	M	R	L	L	F	L
*4	L	F	R	H	L	H

PKC の声調パターン*1, *2, *3, *4 はそれぞれ Luce (1985) の Tone Pattern IIIa, Tone Pattern IIIb, Tone Pattern IIa, Tone Pattern I に概ね相当すると言ってよい。

§2.4 でも述べたように、短母音と閉鎖末子音 C2 の韻を含む促音節および C3 を含む促音節の声調に関する扱いには更なる検討が必要であるほか、PKC の形式が促音節である場合、言語間で平音節の場合と異なる声調の対応も見られるようである (VanBik 2009: 511–515)。そこで、本稿では PKC の形式が平音節の語を考察の対象とし、表 5 に示した声調の対応とラルテー語の声調がどのように関連しているのかを中心に調べることにした。

[1] PKC の声調パターン*1

VanBik (2009) が声調パターン*1 に分類した語で、筆者のラルテー語のデータから見つかった同根語は以下の 50 例である (例 (60) – (109) 参照)。このうち、例 (81) を除くと全て低平調で現れていることが分かる。例 (81) の â:ksĩ:「星」は、-sĩ: の部分が上昇調 (R, すなわち PKC の声調パターン*3 に相当) となっているが、中央チン語群における声調の対応を見てみると、ハカ・ライ語で R, ファラム・ライ語で L, ミゾ語で L となっており、声調パターン*3 と同様に対応していることが分かる (VanBik 2009: 459)。

(60) bà:l 'taro' PKC *6aal1, (61) dàn 'other' PKC *d̪aŋ1, (62) puàn 'garment' PKC *puan1, (63) sàpà: 'mushroom' PKC *paa1, (64) nâ:wpàn 'child' PKC *θaa-/*naaw-pang1, (65) tò: 'buttock' PKC *too1, (66) tín 'nail' PKC *tin1, (67) til 'testicle' PKC *til1, (68) tù: 'water' PKC *tuy1, (69) kèy 'I' PKC *kay1 ✕ *kay1maʔ3, (70) kâl 'kidney' PKC *kal1, (71) kuà 'nine' PKC *kua1, (72) kù:ŋ 'trunk' PKC

*ku(u)ŋ1, (73) thì: 'blood' PKC *thii1, (74) thì:k 'steel' PKC *thiir1, (75) thèy 'fruit' PKC *thay1, (76) thàŋ 'trap' PKC *tha(a)ŋ1, (77) thìŋ 'tree' PKC *thiŋ1, (78) càkà:y 'crab' PKC *ʔaay1, (79) ùy 'dog' PKC *ʔuy1, (80) ìn 'house' PKC *ʔim1, (81) â:ksì: 'star' PKC *ʔaar4-θii1✕-*sii1, (82) cě:ŋkòl 'watersnail' PKC *tseŋ3-kol1, (83) cèy 'spear' PKC *θay1, (84) pàsàl 'husband' PKC *pa3sal1, (85) suàŋ 'stone' PKC *suaŋ1, (86) sàm 'hair (head)' PKC *sʰam1, (87) sùm 'mortar' PKC *sʰum1, (88) mèyhòl 'charcoal' PKC *ho(o)l1, (89) î:mùmàŋ 'dream' PKC *maŋ1, (90) mèy 'fire' PKC *may1, (91) àmùl 'hair' PKC *mul1✕ *hmul1, (92) mèykʰù: 'smoke' PKC *may1-khuu2, (93) àmèy 'tail' PKC *may1, (94) nàŋ 'you' PKC *naŋ1, (95) mà:y 'face' PKC *hmaay1, (96) nò:y 'breast' PKC *hnooy1, (97) ànuày 'under' PKC *hnuay1, (98) thàrà:w 'spirit' PKC *raaw1, (99) kuǎrruàm 'ravine (valley)' PKC *ruam1, (100) làm 'side' PKC *lam1, (101) ùylî: 'flea' PKC *ʔuy1hlîi4, (102) lèy 'earth' PKC *lay1, (103) lòw 'farm' PKC *law1, (104) lùŋ 'worm' PKC *luŋ1, (105) làm 'way' PKC *lam1, (106) là: 'song' PKC *hlaa1, (107) sàvùn 'leather' PKC *wun1, (108) kʰutzùŋ 'finger' PKC *yup1, (109) zàŋ 'penis' PKC *zaŋ1

[2] PKC の声調パターン*2

VanBik (2009) が声調パターン*2 に分類した語で、筆者のラルテー語のデータから見つかった同根語は以下の 24 例である (例 (110) – (133) 参照)。上述の声調パターン*1 の場合と同様、全ての語が低平調で現れる。

(110) bè: 'bean' PKC *bee2, (111) kʰàbè: 'chin' PKC *ka2✕*kha2-bee2, (112) bù: 'nest' PKC *buu2, (113) pà: 'father' PKC *paa2, (114) tù: 'grandchild' PKC *tuu2, (115) kil 'corner' PKC *kil2, (116) àkì: 'horn' PKC *kii2, (117) kò:ŋ 'waist' PKC *koŋ2✕*kuŋ2, (118) sàkʰî: 'deer' PKC *sʰa2-khii4, (119) mèykʰù: 'smoke' PKC *khuu2, (120) àcùŋ 'above' PKC *tsuŋ2, (121) soʔsì: 'sesame seed' PKC *tshii2, (122) sù: 'vulva' PKC *tshuu2, (123) cà: 'child' PKC *θaa2, (124) sà: 'meat' PKC *sʰaa2, (125) hùn 'time' PKC *hun2, (126) mì: 'person' PKC *mii2, (127) àmù: 'seed' PKC *muu2, (128) mèykʰù: 'smoke' PKC *may1-khuu2, (129) nù: 'mother' PKC *nuu2, (130) sàŋà: 'fish' PKC *ŋaa2✕*hŋaa2, (131) nò:y 'breast' PKC *hnooy2, (132) sàvà: 'bird' PKC *waa2, (133) sàzù: 'rat' PKC *yuu2

[3] PKC の声調パターン*3

VanBik (2009) が声調パターン*3 に分類した語で、筆者のラルテー語のデータから見つ

見つかった同根語は以下の 34 例である（例 (134) – (167) 参照）。(139), (148), (151) を除くと、全て上昇調で現れている。(139) と (148) は上昇調から低平調への声調変化 (§2.4) が生じており、(151) は短母音化 (§2.3) により *pà* の部分が低平調で現れている。

(134) *dǎ:n* 'method' **dǎan*_{3/4}, (135) *kũm* 'year' PKC **kum*₃, (136) *kĩw* 'elbow' PKC **ki(i)w*₃, (137) *kʰuttũm* 'fist' PKC **kut-ʰkʰut-tum*₃, (138) *kě:l* 'goat' PKC **keel*₃, (139) *kà:ykuân* 'shrimp' PKC **kaay*₃-ʰ**ɲaay*₃-*kuan*₄, (140) *thũǎmnǎ*: 'clothing' PKC **thuum*₃, (141) *sàtʰǎ:w* 'fat' PKC **thaaw*_{3/4}, (142) *thǒw* 'fly' PKC **thaw*₃, (143) *thĩn* 'liver' PKC **thin*₃, (144) *iʔkʰũn* 'bed' PKC **khum*₃-ʰ**khun*₃, (145) *cǎl* 'forehead' PKC **tsal*₃, (146) *cĩ*: 'salt' PKC **tsii*₃, (147) *cě:ŋkòl* 'watersnail' PKC **tseŋ*₃-*koll*, (148) *sù:nlâ:y* 'daytime' PKC **tsu(u)n*₃, (149) *sǎŋ* 'bread' PKC **tshaŋ*₃, (150) *sĩ:n* 'cover' PKC **tshiin*₃, (151) *pàsàl* 'husband' PKC **pa*₃-*sal*₁, (152) *sě:ktʰù:k* 'lemon' PKC **seer*₃, (153) *mũ:k* 'lip' PKC **hmuur*₃, (154) *mũn* 'place' PKC **hmun*₃, (155) *nǎ:k* 'nose' PKC **hnaar*_{3/4}, (156) *nǎ*: 'work' PKC **hnaa*₃, (157) *lǒŋ* 'ship' PKC **looŋ*₃, (158) *lěy* 'bridge' PKC **lay*₃-ʰ**hlay*₃, (159) *lũy* 'river' PKC **luuy*₃, (160) *hěy* 'axe' PKC **hray*₃, (161) *àlĩm* 'shade' PKC **hli(i)m*₃, (162) *vuǎy* 'times (classifier)' PKC **woy*_{2/3}-ʰ**way*_{2/3}, (163) *zǎ*: 'hundred' PKC **yaa*₃, (164) *zǎ:n* 'night' PKC **yaan*₃, (165) *zũn* 'urine' PKC **yun*₃, (166) *thǎ*: 'moon, month' PKC **khlaa*₃, (167) *àtʰǎ*: 'wing' PKC **khlaa*₃

[4] PKC の声調パターン*4

VanBik (2009) が声調パターン*4 に分類した語で、筆者のデータから見つかった同根語は以下の 73 例である（例 (168) – (240) 参照）。(186) と (236) を除き、全て下降調で現れている。(186) と (236) のみ低平調で現れる要因は現調査段階では分からない。

(168) *bô:m* 'box' PKC **boom*_{1/2/4}, (169) *bê:l* 'pot' PKC **beel*₄, (170) *pâ:k* 'flower' PKC **paar*₄, (171) *pũ*: 'grandfather' PKC **puu*₄, (172) *pĩ*: 'grandmother' PKC **pii*₄, (173) *tũ:k* 'poison' PKC **tuur*₄, (174) *kôŋ* 'path' PKC **koŋ*₄, (175) *kâm* 'bank' PKC **kam*₄, (176) *kà:ykuân* 'shrimp' PKC **kaay*₃-ʰ**ɲaay*₃-*kuan*₄, (177) *kâm* 'mouth' PKC **kam*₄, (178) *kuân* 'tray' PKC **kuan*₄, (179) *pʰê:k* 'mat' PKC **pher*₄, (180) *soʔtʰĩ:ŋ* 'ginger' PKC **thiĩŋ*₄, (181) *kʰuâ* 'village' PKC **khua*₄, (182) *ũ*: 'elder sibling' PKC **ʔuu*₄, (183) *â:yêŋ* 'turmeric' PKC **ʔaay*₄, (184) *â:ksĩ*: 'star' PKC **ʔaar*₄-*θii*₁-ʰ**siii*₁, (185) *siâl* 'mithun' PKC **sial*₄, (186) *suàn* 'lead (metal)' PKC **suan*₄, (187) *sũm* 'money' PKC **sum*₄, (188) *àhò:ŋ* 'shell' PKC **hoon*₄, (189) *tʰèyhâ:y* 'mango' PKC **haay*₄, (190) *mâ:w* 'bamboo' PKC **maaw*₄, (191) *môw* 'bride, groom' PKC **maw*₄, (192) *mũ*: 'hawk' PKC **muu*₄-ʰ**hmuu*₄,

(193) mî:m 'maize' PKC *mim4, (194) nûŋzâ:ŋ 'back' PKC *nuŋ4ꜜ*hnun4, (195) pànâ: 'five' PKC *ŋaa4, (196) mê:l 'appearance' PKC *hmeel4, (197) àmâ: 'front' PKC *hmaa4, (198) ŋô:ŋ 'neck' PKC *hŋoon4, (199) hâm 'country' PKC *ram4, (200) àhîm 'smell' PKC *rim4, (201) àlà:i 'center' PKC *laay4, (202) lâl 'chief' PKC *lal4, (203) ùylî: 'flea' PKC *ʔuy1-hlii4, (204) vû:k 'snow' PKC *wuur4, (205) nûŋzâ:ŋ 'back' PKC *yaan4, (206) zû: 'liquor' PKC *yuu4, (207) zô:ŋ 'monkey' PKC *yoon4, (208) tâ:ŋ 'mountain' PKC *klaan4, (209) tî: 'wind' PKC *khlii4, (210) inkî:ŋ 'soot' PKC *kri(i)ng4, (211) bâ:n 'arm' PKC *ʔaan4, (212) biân 'cheek' PKC *ʔian4, (213) tûy 'egg' PKC *du(u)y4ꜜ*tu(u)y4, (214) sàkêy 'tiger' PKC *kay4, (215) pàthûm 'three' PKC *thum4, (216) kʰuây 'bee' PKC *khuay4, (217) kʰâ:w 'cord, rope' PKC *khaaw4, (218) â:k 'chicken' PKC *ʔaar4, (219) cîl 'saliva' PKC *tsil4, (220) sâ:y 'elephant' PKC *saay4, (221) nî: 'sun' PKC *nii4, (222) ŋâl 'shin' PKC *ŋal4, (223) hû:l 'snake' PKC *ruul4, (224) pâlî: 'four' PKC *lii4, (225) bà:lhâ: 'yam' PKC *hraa4, (226) sàvôm 'bear (animal)' PKC *wom4, (227) pʰîm 'needle' PKC *phrim4, (228) sàkʰî: 'deer' PKC *sʰa2-khii4, (229) ô:kbô:k 'throat (outside)' PKC *ʔor4, (230) àsûŋ 'inside' PKC *tshun4, (231) hâ: 'tooth' PKC *haa4, (232) mîŋ 'name' PKC *mîŋ4ꜜ*hmiŋ4, (233) nî: 'paternal aunt (father's sister)' PKC *nii4, (234) nâ:wpàn 'child' PKC *naaw4, (235) mèymâ: 'wound' PKC *hmaa4, (236) ànà:y 'pus' PKC *hnaay4, (237) lû: 'head' PKC *luu4, (238) lûŋ 'heart' PKC *luŋ4, (239) lêy 'tongue' PKC *lay4, (240) liŋ 'thorn' PKC *hliŋ4

PKC の形式が平音節の場合、PKC とラルテー語との声調の対応は表 6 のようにまとめられる。ラルテー語は、北部チン諸語のティディム・チン語やタドウ・クキ語と同様に、PKC の*1 と*2 が同じ声調で現れる一方、PKC の*3 と*4 は異なる声調で現れる。

表 6 クキ・チン語支の言語間に見られる声調対応 (VanBik 2009: 454) とラルテー語

PKC	Mara	Hakha Lai	Falam Lai	Mizo	Tedim Chin	Thado Kuki	Ralte
*1	H	F	H	R	R	F	L
*2	H	L	F	F	R	F	L
*3	M	R	L	L	F	L	R
*4	L	F	R	H	L	H	F

4 まとめ

本稿ではラルテー語の言語背景と音韻に関する概要を述べた後、VanBik (2009) の再構したクキ・チン祖語 (PKC) をもとに、PKC とラルテー語との対応関係を明らかにした。

頭子音における対応関係を見ると、PKC の *b- と *d- の非入破音化、鼻音と流音における有声／無声の対立の消失、PKC の *tsh-, *θ-, *s^h- の歯茎摩擦音 s- への合流、PKC の *r- における無声声門摩擦音への改新 (PKC *r- > *g- > h-), PKC の *w- と *y- の摩擦音化 (PKC *w- > v-, PKC *y- > z-) などが特徴的なものとして挙げられる。特に、PKC *r- > h- は北部チン諸語の中ではラルテー語特有の改新とも言えるだろう。PKC の子音結合は PKC *pr-/*phr- > p-/p^h-, PKC *kr-/*khr- > k-/k^h- といったわたり音 (glide) の脱落による頭子音の単独化のほか、PKC *kl-/*khl- > t-/t^h- といった改新も見られる。

韻における対応関係を見ると、PKC の *-ay と *-aw が -ey と -ow にそれぞれ対応し、他の北部チン諸語のように末子音 *r が -k に対応していることを除けば、ラルテー語の末子音の形式は PKC の形式をほぼ維持していると言える。但し、北部チン諸語のティディム・チン語のように末子音 *r が全て末子音 -k に対応しているというわけではなく、末子音 -r を維持している語も少なからずラルテー語に存在する。

最後に、声調における対応を調べたところ、PKC の形式が平音節である場合、ラルテー語の声調のパターンは PKC の 4 つの声調パターンと相関関係にあることが分かった。ティディム・チン語やタドウ・クキ語などの他の北部チン諸語と比べてみると、調値は各言語で異なるものの、PKC の声調パターン 1* と 2* が合流している点では共通していた。

本稿ではラルテー語が北部チン諸語の言語グループに属することの妥当性を確認しつつ、ラルテー語独自の改新も示した。ラルテー語は消滅の危機に瀕した言語である。今後は音韻の分野だけでなく、形態統語面での記述も早急に行う必要があるだろう。

参考文献

- Bhaskararao, Peri (1996) A Computerized Lexical Database of Tiddim Chin and Lushai. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies.
- Chhangte, Lalnunthangi (1993) Mizo Syntax. Ph.D. Dissertation, University of Oregon.
- Eberhard, D.M., Simons, G.F. & Fenning, C.D. (eds.) (2019) Ethnologue: Languages of Asia, twenty-second edition. Dallas, Texas: SIL International.

- Henderson, Eugénie J. A. (1965) *Tiddim Chin: a descriptive analysis of two texts*. London Oriental Series #15. London: Oxford University Press.
- Khoi Lam Thang (2001) A phonological Reconstruction of Proto Chin. Master's Thesis, Payap University, Thailand.
- Luce, Gordon H. (1985) *Phases of pre-Pagán Burma: Languages and history*. Vol. 2. Oxford: Oxford University Press.
- Matisoff, James A. (1978) Variational Semantics in Tibeto-Burman: the 'organic' approach to linguistic comparison. Philadelphia: Institute of the study of Human Issues.
- 西田龍雄 (1989) 「チン語支」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『言語学大辞典 世界言語編 (中)』2: 995-1008. 東京: 三省堂.
- 大野徹 (1965) 「共通クキ・チン語の再構成——(1)語頭子音」『言語研究』47:8-20.
- 大塚行誠 (2015) 「ラルテー語における音韻体系: ミゾ語及びティディム・チン語との対照的考察」『東京大学言語学論集 電子版 (eTULIP)』36: 49-59.
- 大塚行誠 (2016a) 「ラルテー語の人称標示」『東京大学言語学論集 電子版 (eTULIP)』37: 19-28.
- 大塚行誠 (2016b) 「ラルテー語の基礎語彙とテキスト」『アジア・アフリカの言語と言語学』10: 325-344.
- Ralte, Khawitinthanga (2005) *Ralte ṭawng vawnṭhatna*. Aizawl: Thangkima Ralte.
- Ralte, Lalramzauva (2017) *Ralte ṭawng vawnṭhatna (Ralte pau vawn phatna)*. Aizawl: Ralte Welfare Committee, Hqrs.
- Ralte Study Forum (2012) *THUTHUNG THAR (RALTE PAU)*. Aizawl: Ralte Study Forum.
- VanBik, Kenneth (2009) *Proto-Kuki-Chin: A reconstructed ancestor of the Kuki-Chin languages* (STEDT Monograph 8). Berkeley: University of California.

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP17K13442,JP20H01256,JP18H03599 の助成を受けたものである。メイン・インフォーマントである Lalramzauva Ralte 様には多大な御協力を頂いた。さらに、本稿のティディム・チン語の例は Pau Sian Lian 様と Man Ngaih Hau 様に、ミゾ語の例は Lalrinpuui Ralte (Marini) 様に提供して頂いた。ここに心からの感謝の意を表する。

(おおつか・こうせい 大阪大学)